

現場



しばしばSNS上に投稿された文章で「現場」という言葉を使う人を見かける。「今日の現場は映画の撮影でしたー」とか「今日の現場はイベントのMCでしたー」というように。それはそれでいいのだが、「現場」とは「金銭が発生する場所」という意味合いを持つ場所のことだと思う。友達と海へ遊びに行っても「今日の現場は海でしたー」とは言わないのだから。つまり、そこに関わることが経済活動である場合、人は「現場」という言葉を使う。

警察官にとつての「現場」は、言つまでもなく犯罪現場であろう。犯罪と言つてもピンからキリまであるが、やはり、犯罪現場の王道は殺人現場であろう。引き止める制服警官に手帳を見せて、白手袋をはめながら張り巡らされた「KEEP OUT」のテープをかいぐり、殺害された人間のいる場所へ踏み込む時の快感は、司法警察官に与えられたが最大の特権である。そういう場所こそ、現代を生きる人間の愛と欲望が渦巻く最前線である。これも司法警察官にとつては経済活動であることに変わりはない。彼らは捜査を通して生計を立てるわけだから。それは決して趣味や道楽ではないのである。

芝居の稽古場や劇場も演劇に携わる者にとつては「現場」であることはまちがいない。そこには多かれ少なかれ金銭が流通しているからである。そういう意味では、金銭の流通のないところは、どこかのどこかで、緊張感に欠ける。そこに集う人々の「これは趣味や道楽やないんやでっー」という気概が、「現場」を緊張感が漂う「現場」たらしめる。それはちよつとバクチ打ちが金を賭ける賭場の雰囲気似ている。「現場」ではみな「本気」なのだ。

高橋いさを

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉